

# 図書館情報

●新着図書  
 ▶外伝 小角 / 黒須紀一郎 ▶結婚恐怖 / 小林信彦 ▶情事 / 志水辰夫 ▶金魚時代 / 高橋洋子 ▶原発を拒んだ町 / 新潟日報報道部 ▶知っておきたい釣った魚の簡単料理 / 相良秋男 ▶日本語要説 / 渡辺実 ▶逃げ道 / フランソワーズ・サガン ▶探偵家族 / マイケル・Z・リュウイン ▶教育をどうする / 岩波書店 ▶学校って、なんだろう / 産経新聞取材班 ▶ぐりとぐらの1ねんかん / やまわきゆりこ ▶にじいろのさかなしましまをたすける! / マーカス・フィスター ▶ばばあちゃんのマフラー / さとうわかきこ ▶コアラゆうびん / 齊藤洋 ほか多数



ギリシアを平定し、エジプト、シリア、ペルシア、インドにまで及ぶ大帝國を築き上げたアレキサンダー大王の実像に迫る。



関ヶ原の合戦の功により安泰であったはずの小早川家。だが、秀秋は酒色におぼれ、殺生を繰り返す。史上最大の裏切り者の生涯を描く。

## 広がれ健康家族 ⑦ 保健センター ☎373・4300

### すこやか子育てライフその2

#### 「やけど・誤飲」



1歳から4歳までの子供の死亡原因の第1位は「不慮の事故」です。死亡にまで至らなくても、事故は日常生活の中で多発しているのが現状です。幼児期の事故の大半は、親や家族のちょっとした気配りで防ぐことができず、今回は、冬場に多い「やけど」と何でも口に入れてしまうという幼児の特徵から発生する「誤飲」についての予防法をご紹介します。

#### やけどによる事故を防ぐには

やけどは、寒さが厳しくなるこの時期に多く発生します。身の回りで誤って触れないよう工夫をしましょう。ポットや電気炊飯器などは蒸気でやけどをしてしまいます。子供の手の届かない所に置き、余分なコードは巻き取っておきましょう。アイロン掛けも子供のいるときは、離れた方が安心です。コンセントには、カバーを付けたと感電を防止できます。ストーブを使う場合は、回りを柵で囲み、子供が近づかないようにしてください。

#### もしものときは

万一、やけどをした場合は、すぐに冷やしてください。誤飲した場合は、水や牛乳を飲ませて吐かせるのが原則ですが、例外もあります。分からないときは、医師に相談し、適切な処置ができるよう指導を受けてください。

#### 誤飲による事故を防ぐには

何気なくテーブルに置いたたばこや薬品などを子供が飲み込んでしまう事故が多く起こっています。きちんと保管場所を決め、子供の手が届かない所に保管しましょう。ピーナツやめは、気道に入ると危険なので、三歳未満の子供には与えないようにしてください。

念願の「豪華車」を着装す  
 この今日の目を指し励みて  
 おぼろなる星物語たどつ  
 ひとり仰ぐ満天の光  
 同室となりし病友らに聞く俳句  
 我も作りて会話たのしむ  
 空想の果つるなき性六十路越えし  
 今も残りて雲と遊べり  
 名月の蒼白き世界一人じめ  
 只只無心何か祈りたし  
 久々に秋の妙高に来て見れば  
 宿の夫婦は顔覚えをり  
 傘差しかけてバス停まで  
 秋の敬老会に行く婦を  
 別れの警笛吾が胸を射る  
 小出上しの

## 市民文芸

### 俳句

豆はじく日和到来豆叩く 山田 孝  
 猿酒に習ひがまずみ醸すと 吉川八重子  
 椿の実触れてばちんと弾きけり 五十嵐智恵子  
 白鳥の来て夕暮の早まれり 五十嵐寛吾  
 ひと抱へ島の前を折りくれし 堀内十子  
 ぱっくりと通草の割るる山日和 小林 光子  
 時雨るるや肩寄せ合うて無縁基 安沢 飛浪  
 展示作根気て作る夜なべかな 小林 すみ  
 山峯の村に秋日のあふれをり 公修 雪夫  
 種となり行く鶴頭の花重し 成沢 素明  
 海のある故郷はるか雲 和泉 伸子  
 からからと鳴る蛙豆を刈りにけり 猪股 南魚  
 行く秋を連磨片目で眺みをり 間島きよ子  
 山寺の十一月の竹葎 真鳥つきえ  
 古仏十一月も笑みてをり 山田 栄一  
 分譲地の旗の寂れし十一月 小林 なお  
 行く秋や期待うすれし雨の旅 金子 千代  
 行く秋の夕日溜めたる大樫 塚本 梓子  
 信濃路の山あい无たすそばの花 志野信一郎  
 行く秋や分校五人鷲十羽 遠藤 大蔵  
 豆莢陽の逃げ易き十一月 田中美根子  
 鶯の輪が十一月の空磨く 丸山 虚秋  
 行く秋や男にもある愁ひごと 間島 秀穂  
 昨夜よりはさらにも空の秋めさて 大蔵 イツ  
 こころにふかき月のいろかな

## 市民談話室

日ごろ考えていることや身の回りの出来事などを500字程度にまとめて投稿してください。紙面の都合上、若干手直しさせていただきます。あて先は広報広聴係(〒950-12 白根市大字白根1235 白根市役所広報広聴係)です。

### 電鉄を考える

谷 和久(十五回)

去る九月二十六日、黒崎町で「電鉄廃止問題を考える」のシンポジウムが開催されました。今年四月に新潟交通が電鉄廃止を発表してから、いろいろな記事が出て、私なりに「何か良い方法はないものか」と心配していました。そこで、すかさず参加してきました。パネラー三人の方々のいろいろな話を聞き、なるほどと思いました。

あるパネラーは、現在の東関屋までの新潟方面の終点をJR新潟駅にまで延ばし、月潟方面も弥彦線まで延ばして電車に乗ったままでJR線で全国へ行くようにという案を出しました。また、あるパネラーは、JR駅に直接接続するのも良いが、古町や笹谷小路などに路面電車を走らせ、これと電鉄とを接続すれば、利用者も増えるのではないかと考えていました。いったん廃止した電車を将来再活用し、路面電車を走らせようというのは無理に等しく、外国ではこの路面電車の見直し

